

幼児理解に基づいた評価に関する資料

中央教育審議会答申における記載

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(平成28年12月21日)

第2部 各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性

第1章 各学校段階の教育課程の基本的な枠組みと、学校段階間の接続

1. 幼児教育

(3)④幼児期にふさわしい評価の在り方

- 幼稚園における評価については、現行の幼稚園教育要領第2章「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、幼児の発達の実情から向上が著しいと思われるものを評価してきたところである。
- 次期幼稚園教育要領等においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の明確化の方向性が示されることに伴い、幼児期の評価についても、その方向性を踏まえ、改善を図る必要がある。
- 具体的には、幼児一人一人のよさや可能性を評価するこれまでの幼児教育における評価の考え方は維持しつつ、評価の視点として、幼稚園教育要領等に示す各領域のねらいのほか、5歳児については、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた視点を新たに加えることとする。その際、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものでないことに留意するようにする。
- また、幼児の発達の状況を小学校の教員が指導上参考にできるよう、指導要録の示し方の見直しを図るとともに、指導要録以外のものを含め、小学校と情報の共有化の工夫を図る。
- その他、日々の記録や、実践を写真や動画などに残し可視化したいいわゆる「ドキュメンテーション」、ポートフォリオなどにより、幼児の評価の参考となる情報を日頃から蓄積するとともに、このような幼児の発達の状況を保護者と共有することを通じて、幼稚園等と家庭が一体となって幼児と関わる取組を進めていくことが大切である。

幼稚園教育要領における記述

○幼稚園教育要領

第1章 総則

第4 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価

4 幼児理解に基づいた評価の実施

幼児一人一人の発達を理解に基づいた評価の実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 指導の過程を振り返りながら幼児の理解を進め、幼児一人一人のよさや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにすること。その際、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評価によって捉えるものではないことに留意すること。
- (2) 評価の妥当性や信頼性が高められるよう創意工夫を行い、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、次年度又は小学校等にその内容が適切に引き継がれるようにすること。

※特別支援学校幼稚部教育要領においても同様の記載あり。

幼稚園幼児指導要録等に関する規定等

○学校教育法施行規則

第24条 校長は、その学校に在学する児童等の指導要録を作成しなければならない。

2 校長は、児童等が進学した場合においては、その作成に係る当該児童等の指導要録の抄本又は写しを作成し、これを進学先の校長に送付しなければならない。

3 校長は、児童等が転学した場合においては、その作成に係る当該児童等の指導要録の写しを作成し、その写し(転学してきた児童等については転学により送付を受けた指導要録(就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律施行令(平成二十六年政令第二百三号)第八条に規定する園児の学習及び健康の状況を記録した書類の原本を含む。)の写しを含む。)及び前項の抄本又は写しを転学先の校長、保育所の長又は認定こども園の長に送付しなければならない。

※ここでいう学校とは、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等をいう。
※ここでいう児童等とは、幼児、児童、生徒又は学生をいう。

幼稚園幼児指導要録の様式について

【学籍に関する記録】

学籍に関する記録は、外部に対する証明等の原簿としての性格をもつものとし、原則として、入園時及び異動の生じたときに記入すること。

幼稚園幼児指導要録(学籍に関する記録)

区分	平成 年度		平成 年度		平成 年度		平成 年度	
	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度
学 級	年度ごとの 学級・整理番号							
整理番号								

幼 児	ふりがな 氏 名	幼児氏名				性 別	幼児 性別
	平成 年 月 日生	幼児生年月日					
	現住所	幼児現住所					
保 護 者	ふりがな 氏 名	保護者氏名					
	現住所	保護者現住所					
入 園	平成 年 月 日	入園前の	入園前の状況				○入園前の状況 保育所等での集団生活の経験の有無等を記入すること。
転入園	入園年月日 転入園年月日 転退園年月日 修了年月日	状 況					
転・退園		進学先等	進学先等				○進学先等 進学した学校や転園した幼稚園等の名称及び所在地等を記入すること。
修 了	平成 年 月 日						
幼稚園名 及び所在地	幼稚園名、所在地						
年度及び入園(転入園) ・進級時の幼児の年齢	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	入園、進級時の幼児の年齢
園 長 氏 名 印	年度ごとの園長氏名・学級担任者氏名						
学級担任者 氏 名 印							

幼稚園幼児指導要録の様式について

【指導に関する記録】

(様式の参考例)

指導に関する記録は、1年間の指導の過程とその結果を要約し、次の年度の適切な指導に資するための資料としての性格をもつものとする。

幼稚園幼児指導要録(指導に関する記録)

氏名	平成 年度			
	(学年の重点)	(学年の重点)	(学年の重点)	(学年の重点)
幼児氏名・生年月日・性別	指導の重点			
性別	(個人の重点)	(個人の重点)	(個人の重点)	(個人の重点)
ねらい (発達を捉える視点)	指導上参考となる事項			
健康				
人間関係				
環境				
言葉				
表現				
出欠状況				
備考				

○学年の重点：
年度当初に、教育課程に基づき長期の見通しとして設定したものを記入

○個人の重点：
一年間を振り返って、当該幼児の指導について特に重視してきた点を記入

指導上参考となる事項：
(1) 次の事項について記入すること。
① 1年間の指導の過程と幼児の発達の姿について以下の事項を踏まえ記入すること。

・幼稚園教育要領第2章「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、当該幼児の発達の実情から向上が著しいと思われるもの。その際、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。

・幼稚園生活を通して全体的、総合的に捉えた幼児の発達の姿。

② 次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。

(2) 幼児の健康の状況等指導上特に留意する必要がある場合等について記入すること。

幼稚園幼児指導要録の様式について 【指導に関する記録】

(様式の参考例)

入学時の障害の状態等：
入学又は転入学時の幼児
の障害の状態等について記
入すること。

特別支援学校幼稚園幼児指導要録(指導に関する記録)

氏名	性別	平成 年 月 日生	指導の重点等	平成 年度		平成 年度		平成 年度		平成 年度		
				(学卒の置業)	(学卒の置業)	(学卒の置業)	(学卒の置業)	(学卒の置業)	(学卒の置業)			
入学時の障害の状態等			入学時の障害の状態等	自立活動の内容に重点を置いた指導								
ねらい (発達を促す視点)												
健康	明るく伸び伸びと行動し、気配が映わり、自分のペースに歩み、進んで活動しようとする。		指 導 上 参 考 と な る 事 項									
人間関係	健康、安全な生活に必要な監督や配慮がきけず。											
環境	幼稚園における生活を楽しみ、自分の力で行動することの気配が映わり。											
言葉	身近な人と話し、工夫がわかる、挨拶や挨拶がきけず。											
表現	健全な態度に話し、自然と関わりあう中で様々な事象に興味や関心をもち。											
観察	身近な態度に自分から工夫、発見を試し、考えたり、それを生活に取り入れる。											
生活	身近な事象を話し、考えたり、試みたりする中で、物の性質や数量、文字などに對する認識を豊かにする。											
社会	自分の経験や想像で表現する楽しさを味わう。											
芸術	人の感情や様々なこと、個性、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。											
自然	日常生活に必要な言葉がわかるようになることにも、身体や動作などに話し、生活や活動に楽しむ。											
文化	いろいろなものの話しや遊びに對する豊かな態度をもち。											
その他	感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。											
生活	生活の中でイメージが豊かにし、様々な表現を楽しむ。											
備考	年度	年度	年度	年度								
出た状況	教育 日数											
	出席 日数											